

## M-3 : 医歯薬系URAの役割

# 医薬品開発から見たURAの役割

8月29日（火） 15:15-16:45 会場D（4階）

大学の発明を医薬品として社会実装するには、URAの役割が重要となるが、医薬品分野の産学連携の特殊性と専門性から、URAに求められる役割が他の分野と異なる点に特徴がある。そこで、本セッションでは、医薬品の研究開発と産学連携を解説し、それを成功に導くURAの役割について議論したいと思う。皆様の積極的なご参加を期待します。

### 1、イントロ「医薬品の開発と産学連携」

セッションの説明と医薬品開発について簡単な解説を行います。

### 2、事例（1）「徳島大学における医薬分野の産学連携の取組」

徳島大学では、平成25年より医薬分野の産学連携の強化を目標として、URAを中心として種々の活動を行ってきた。その結果、徳島大学の実施料収入は、平成28年度は1億円を超えた。この経験を基にURAに求められる役割について考える。

### 3、事例（2）「製薬企業における産学連携の取組」

以前は製薬企業は基礎研究から販売までの一切を一社で行っていた。しかしながら近年、アンメットメディカルニーズの細分化および技術の複雑化、大型化により基礎研究を大学等のアカデミアの求め、製薬企業は応用研究を行うという役割分担を各社とも目指している。そのためには大学には請求は成果を求めず共に研究シーズを育てるという意識が必要である。アカデミアおよび企業双方の利益を共有するために、双方のコーディネーターおよびリーサーチアドミニストレーターとの役割が重要となっている。

### 4、事例（3）「岡山大学拠点における橋渡し研究戦略的推進プログラムの取組」

基礎研究から実用化研究へつなげる間の「デスバレー」を克服すべく、全国の10拠点は、それぞれ5年で新規シーズ6件以上の医師主導治験の開始を目指している。拠点内外の大学連携は必須であり、拠点外の研究シーズ育成には、URAとの架け橋が重要となる。URAに期待する役割について提案し、議論したい。

### 5、総合討論「医薬品開発から見たURAの役割」

事例に基づいて総合討論を行います。

## オーガナイザー



**織田 聡**：徳島大学 研究支援・産官学連携センター センター長  
副理事（産官学連携担当）／教授

大阪大学大学院 医学研究科修了。博士（医学）。弁理士。大手製薬企業を経て、2013年 徳島大学産学連携推進部教授に就任。2016年より現職。徳島大学の産学連携活動全般に携わると共に、知財教育も担当。

## 講演者



**坂田 恒昭** : 塩野義製薬 シニアフェロー  
大阪大学 サイバーメディアセンター 招聘教授

大阪大学大学院理学研究科修了。医学博士。塩野義製薬中央研究所入社後バイオ医薬品創生に従事。その後オープンイノベーション部署担当。製薬業界のオープンイノベーションの基礎を作る。現在同社シニアフェロー。JST特任フェロー、産業技術総合研究所バイオメディカル研究部門顧問、近畿バイオインダストリー振興会議副理事、大阪商工会議所 ライフサイエンス振興委員会副委員長、AMED評価委員多数など産学官に活動。



**嵯峨山 和美** : 岡山大学 研究推進産学官連携機構 准教授

徳島大学大学院人間自然環境研究科修了。企業で約10年、殺菌剤の研究開発に従事。その後、JICAボランティア（中南米）を経て、2010年より徳島大学産学官連携推進部で、大学シーズを活用した産官学連携業務に携わる。2010年米国カリフォルニア州シリコンバレーにあるB-Bridge International, Inc.、2016年英国Oxford University Innovationにて、国際技術移転に関する研修を受ける。2016年より岡山大学にて、AMED橋渡し研究戦略的推進プログラムを担当し、研究シーズの臨床開発支援に奮闘中。

## Memo